

2024/11/26 (火)

創立 137 周年記念

聖書 ルカによる福音書 10 章 25-37 節 (新約 124 頁)

すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」イエスは言われた。「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか。」彼は答えた。「『心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」

### 英和のミッション

今日、創立 137 周年を迎え、激動の近代から歩みを始めた英和女学院に思いを馳せ、神様のみ守りと導きに感謝を献げましょう。また、特にこの一年に神様のもとへ旅立たれたご家族、卒業生、教職員、英和とつながる方々の魂の平安と、残されたご家族、ご友人のために慰めと励ましを祈りましょう。(黙祷)

どんな小さな命の誕生も、成長も奇跡です。そして英和に選ばれ、出会ったのも人知では計り知れないことです。思春期は身体的には最も成長しますが、心や思いは移ろい易く、脆い土の器です。過ちも、足りないところもあります。しかし英和では誰にも、毎朝変わることなく御言葉が与えられてきました。

また私たちひとり一人は違います。誰一人同じ人はいません。そしてその人だけに与えられた賜物があります。神様はその賜物を、隣人を自分のように愛するために献げなさいと言われていきます。他者を愛することは、自分を愛することです。自分を愛することは、他者を愛することです。

だから私たちには同じミッション、使命があります。「世の光・地の塩」として自らを献げることです。暗いと不平を言うよりも進んで明かりを灯す、互いを生かす塩梅、橋渡し、平和の器となることです。愛されている、互いに愛し合っている喜びと感謝が、英和のミッションにつながります。

(黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは昔、カニングハム宣教師によき志を与え、この西草深の地に「静岡女学校」を建てられました。創立137年にわたる深い御摂理に感謝を献げます。しかしここまでの歩みには聖書を読み、礼拝を献げることが禁じられた時があり、太平洋戦争の静岡大空襲では校舎が全焼しました。戦後、カナダの宣教師が再び来日され、国内外の教会の皆様、同窓生たちの篤い祈りと支えによって英和女学院は甦りました。そして、今、世界の人々と共に、わたしたちは地球温暖化による異常気象、愚かな争いによる新たな困難と向き合っています。どうか日々悲しみに耐え祈る方々と共に、ひと時でも早く平和を迎えることができるように導いてください。この言い尽くせない感謝と願い、尊き主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン